

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市富沢児童館	
2 指定管理者	特定非営利活動法人仙台YMCAファミリーセンター	
3 指定期間	令和2年4月1日～令和7年3月31日	
4 施設の利用状況	《利用者数》 ・令和5年度 62,700人(前年度比 113.5%) ・令和4年度 55,223人 ・令和3年度 41,848人	
	《事業》 ・児童に健全な遊びを与え、その健康を増進し、情操を豊かにすることを目的とした児童厚生施設としての事業	
5 収支の状況	《費用》 ・ 指定管理者に支払った費用 94,985千円 (83,876千円) ・ その他市が負担した費用 0千円 (0千円)	()は前年度決算額
	《収入》 ・ 使用料収入 0千円 (0千円) ・ その他収入 0千円 (0千円)	
6 利用者の声	《実施状況》 ・利用者アンケート、地域運営懇談会、児童館利用者座談会、児童クラブ保護者懇談会を実施。	

二 管理運営に係る評価（モニタリングシートの結果によって評価）

評価分野	所見	評価
I 総則	「児童館ガイドライン」等に基づき、設置目的を踏まえた施設運営上の基本方針を定め、職員への共通理解を図るとともに、館内掲示等で利用者にも周知している。職員の倫理保持・服務規律遵守については、研修や会議で確認する取り組みを行っている。また、地域の特性やニーズを踏まえながら各事業に取り組み、施設目的の達成に努めている。	33/33
II 施設の運営管理体制	職員の配置や業務内容の共有、開館の実績、経理書類の作成、個人情報の保護等について適切な管理体制が構築されている。また、各種マニュアルの整備、施設内外の点検、毎月の避難訓練等の実施により、利用者の安全に留意した運営に取り組んでいる。	30/30
III 施設・設備の維持管理	日常的・定期的な点検や清掃により、建物・設備・外構等が適切に維持管理されている。備品や鍵の管理も適切に行われているほか、施設内外の巡回や仙台市環境行動計画に則った取り組みも実施されており、安全で快適な環境が保たれている。	24/24
IV サービスの質の向上	名札の着用、児童館だよりの発行、ホームページの更新による利用情報の提供等、利用者が利用しやすい環境づくりに努めている。また、各種研修会への参加を通して職員の専門性を高めているほか、意見箱の設置、アンケートの実施等で利用者のニーズを把握し、施設運営に生かすなど、サービスの質の向上に努めている。	28/28
V 施設固有の基準	児童クラブにおいては、子ども達が安心して過ごせる生活の場を整え、学校を中心に各関係機関と連携して育成支援に取り組んでいる。また、乳幼児親子向けの行事開催や交流の場の提供により子育て家庭を支援すると共に、小中高生に対して、発達段階に応じた遊びの指導や活動支援を行っている。地域との交流事業においては、日頃の情報交換や様々な工夫を凝らした事業で地域連携の保持に努めている。 また、乳児親子が利用しやすい環境を整えると共に、職員が行事の内容や雰囲気、支援の良かった点や課題点等を記録し共有した。支援の内容や経過、課題について全職員で共有することで、以前の様子を踏まえた声かけや同じ視点での継続した支援に繋げている。相談内容から保護者のニーズを捉え、講話や講座の開催にも繋げている。中高生に遊戯室以外の過ごし方の場を設けた事で日常的な利用に繋がり、学校や保護者との連携が図られている。	21/19

三 評価総括

《指定管理者（特定非営利活動法人仙台YMCAファミリーセンター）による自己評価》
<p>・児童健全育成事業 自由来館の利用促進を再検討（登録・管理）した。土曜日を中心に小学生・中高生の行事を行えるようにし、フードバンクと協力して行った中高生「ごはんDAY」は好評で行事後の児童館利用に大きく繋がった。子どもボランティア「トミザワイレブン」の活動は、毎月のミーティングで児童館のルールや図書購入に子どもたちの意見を積極的に取り入れることができた。</p> <p>・子育て家庭支援事業 アンケートの結果を受け、保育所入所相談や助産師、地域包括センターなど多岐に渡り関連施設の情報を提供できるようにした。初めてでも気軽に参加できるようにカフェスタイルで行事を行ったところ、多くの参加者が集まった。親子料理プログラムでは、毎回定員以上の申し込みがあった。「共に体験する」という子育ての中に大切なことを伝えることができた。</p> <p>・地域交流事業 3町内会の行事が再開され、おまつり実行委員に積極的に参加し、職員が出店を担当したり、児童クラブの子どもたちがチアダンスやお笑い等舞台上で発表することができた。地域でつながった「おりがみの会」の方々が毎月ボランティアに参加してもらえることになり、児童館祭りでは、共催で大きな作品づくりをすることができた。</p> <p>・放課後児童健全育成事業 1年間で平均して350名の登録。毎日の全体会議・クラブ開始前に担当場所でのデイリーミーティングを行い、子どもたちが安全に楽しい居場所になるよう職員全員で努めた。保護者との連携を深めるために「じどうクラブだより」を月1回にした。プレハブサテライトが企画した「水族館づくり」に1年生が遊びに行ったり、年度末「ありがとうの会」では小学校の体育館を借用しクラブ全員が集まったりするなど、異年齢交流をすることができた。いじめ防止行事「ピンクシャツデー」の際に担当者から子どもたちひとりにメッセージを記入。多くの保護者の方に喜びの返信をいただいた。</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>児童健全育成事業においては、来館のきっかけ作りとして小中学生対象の行事を土曜日に設定した事で自由来館増加に繋がっている。特に中学生は遊戯室の使用ルールの見直しや遊戯室以外に使用できる部屋の確保と図書の整備により、職員との関わりや遊びやくつろぎ、居場所を求めて多くの中学生が利用しており、日常的な小学生との交流も図られている。また教員を目指す高校生が子どもボランティアとして夏イベントの企画運営を担う等、子どもの自主的な活動を支援している。</p> <p>子育て家庭支援事業においては、利用者アンケートを受けて0・1歳児のニーズを把握し、関係機関と連携して離乳食セミナーや育児相談の場の設定の他、乳幼児親子の利用の様子を毎回記録し、乳児スペースの環境構成の見直しや工夫をして、気軽に安心して利用できる環境作りに努めている。また母親ボランティアと職員による先輩ママお役立ち情報を作成・掲示し、近隣の医療機関やおむつ交換台がある施設の紹介等、子育てに役立つ情報を更新しながら提供等々の取組みにより、地域の子育て家庭を支援している。</p> <p>地域交流推進事業においては、コロナ終息に伴い町内会行事が再開した。地域の河川清掃に職員が出向いたり、地域のおまつりではコーナー運営のサポートと児童クラブ児童によるステージ発表を行い、地域に児童館の認知度を高め、地域との連携をさらに深めている。その他、関係機関と連携したイベント等を通して地域の子育ての現状について情報交換・共有し、近隣地域含めた太白区全体の子育てネットワークが構築されている。</p> <p>放課後児童健全育成事業においては、場所毎の児童クラブ日誌の他に、児童クラブノートや電話連絡表等の記録を丁寧にとり、子ども達の支援と保護者との連携に努めている。記録からヒヤリハット事例をピックアップして職員会議で検討し、事故防止に努めると共に、毎日のミーティングでは職員全員で申し送りや職員配置、支援の配慮点等を確認共有し、子どもとの信頼関係構築に努めている。また本館・プレハブ・サテライト室の多様なイベントや日々の遊びの充実、学校との連携等、子どもが落ち着いて安心して過ごせる環境を整えている。</p>	S

四 その他特記事項（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

◎ 評価担当課（施設所管課）：こども若者局こども若者支援部児童クラブ事業推進課